

日米「起業ブーム」の真実：なぜ米国では若者が次々と挑戦し、日本では「摩擦」が残るのか？

米国の「負けない」循環



AIは「一人企業の生産性」を極限まで高める：開発・営業・管理コストを代替し、少人数での「試行回数」を劇的に増やす。

起業活動率 (TEA)

19.0%

成人の約5人に1人が起業に関わる



決定的な差は「個人の勇気」ではなく、構造的な違いにある

Z世代の躍進：
米国の事業申請数は前年比+66%



AIによる低コスト化を武器に、若年層がブームを牽引

+66%



創業資金の構造：
VC・エクイティが成長を加速
AIスタートアップの価値：
社数の22%で価値の43%を占める



日本の「遷移の摩擦」

「失敗を許容するシステム」の欠如：
キャリアの中断リスクが高い。



起業活動率 (TEA)

5.7%

圧倒的な母数の差



29歳以下の開業者はわずか6.9%



創業年齢と資金：
日本は「40代・借入」が主流：
平均創業年齢43.6歳。
資金の約9割が借入(65%)と自己資金(25%)で占められる。

